(1) 2

前略、ご多忙、早速お送りいたします。

入念にチェックしていただいて、ただただ感謝しております。特に「アンドロメダ占星術」については、細部のミスまで直していただいて恐縮しております。

この作品の問題点は三点あって、（本当は三点）

① 背景の銀河系が"赤く"見えるのではないか。

② ラストの、レーザーの照射の中に投げ出された時、銀河が見えるのではないか。

いずれにせよ、作品のテーマからは、銀河が背景か宇宙船をつつむように見える必要があり、ラストもあのままではならないと思います。

①については、3つの可視域は10倍近い強度にのぼるので、赤外線になってしまいますが、銀河の殻の紫外域のスペクトルが可視域に入ってきて、ある強度は見えるとは思います。この②、石原さんに聞いてみたいのですが、SF4 8月号の解説では必ずしも否定はされていないようですので、何とかいけるのではないかと思います。

（ちなみに、この作品、8月号104頁の殻のところの話と同じです）。ただ、実用をもたせるために、この世界の人間の視覚は赤外域も感知できるようにしたという1行を加えました。

②も気にはしていたことですが、床が破壊された訳ですから、真下のところに小さい破片があって、ダイレクトの照射を受けていると、それは、レーザー自体はコヒーレントな強力で、視界には影響しないということで進めます。（既の位置だけでも）なお、"一瞬"という[redacted]2字を加えました。

武蔵さんからも占星術に関して色々コメントをもらったのですが、生かされません。木星と土星の性向のまちがいだけは直しました。

甲第②6号証

なお他、推進力を得るためには放射面または平面の方がいい[illegible]とか、レーザーが振動しないから（これは恒星を利用する技術があるのだから、もっと指向性の強いレーザーは開発されているはず）、などと考え出すときりがなくなりますので、何とかこの辺で。

それから、「宇宙旅の手」の情報管理官の口調についてですが、最初エリートだったのが目的地に行くまでの間に、だんだんに貧相になっていく雰囲気を出したかったのが、混乱してしまったものです。途中から変るのは不自然かもしれないのですが、一応それらしい説明を何行か入れました。

「猫一」の方の口調はあちらこちら。ついでに直しました。

それ他、ごめんに気がついたこと。

「無重力の恋」は前半、変なにいいのに驚きました。と自分でいってはいけませんが。ただ、主人公が上（宇宙船）へ行く動機は弱く、これは、無重力圏で育った不純な美少年に惹きつけられずにいられないことを、今わかりました。彼の長ったらしい欠点となり、今となってはまことに残念であります。

「恋の掟」は色々な時間帯をごちゃまぜに書いているのが、今になって判明してきました。これは長篇のエッセンスですから、直さないでおこう。

直しはじめると一生かかりそうなので、何とか最小限の訂正のみ行ないました。

難波場数の時から未世話になればなるほど、何年おくれても未強いられます。

早々